



小林多喜二年表

一九〇三年（明治三十六年）

十二月一日、秋田県北秋田郡下川沿村川口十七番地に生まれる。

父小林末松三十八歳、母セキ三十歳の次男。

一九〇七年（明治四十年）四歳

一月四日、妹ツギ生まれる。

一九〇八年（明治四十一年）五歳

一月、小樽区若竹町に住居をさだめ、両親は伯父の経営していた三星パン店の支店をひらく。

一九一〇年（明治四十三年）七歳

四月、小樽区立潮見台尋常小学校に入学。

一九一六年（大正五年）十三歳

三月二十四日、小学校卒業。

四月、庁立小樽商業学校に入学。新富町の伯父の家に住みこみ、パン工場の手伝いをしながら通学。

七月七日、妹幸生まれる。

一九一七年（大正六年）十四歳

島田正策、斎藤次郎ら小樽商業生数人と絵のサークルをつくり、水彩画を描き始める。

作文「今は昔」、『尊商』十二月第壱号。

一九一九年（大正八年）十六歳

四月、本科二年に進級、校友雑誌『尊商』の編集委員に選ばれる。

このころから、詩、短歌、小品などを書き始める。

十一月、一、二日、小樽区稲穂町の中央倶楽部でひらかれた小羊画会に水彩画六点を出品。

小品「呪われた人」、『尊商』三月第二号。

一九二〇年（大正九年）十七歳

四月、島田正策、蒔田栄一、片岡亮一、斎藤次郎、灰野文一郎らと回覧文集『素描』を創刊し、十一月頃まで七集を発行。

九月下旬、伯父慶義に絵をやめさせられる。

詩「秋の夜の星」、『尊商』三月第三号。

詩「秋が来た!!」、『尊商』第三号。

小品「病院の窓」、『尊商』第三号。

小品「電燈の下で」、『尊商』第三号。

詩「北海道の冬」、『文章世界』五月号。

詩「冬から春へ」、『文章世界』五月号。

詩「春」、『中央文学』六月号。

「編輯余感」、『尊商』第三号。

一九二一年（大正十年）十八歳

二月、原稿をマシンでつづり、「生れ出ずる子ら」という表題をつけ、友人間を回覧して批評を求める。

三月二十四日、庁立小樽商業学校卒業。

五月五日、小樽高等商業学校に入学。新富町の伯父の家を去り、若竹町十八番地の自宅から通学。

『小説倶楽部』に短編小説の投稿をはじめ、八月号に「祖母の遺言」、十二月号に「ある嫉妬」が選外佳作になる。

秋ごろから志賀直哉の文学を学びはじめる。

詩「冬から春へ」、『尊商』三月第四号。

詩「喜び!!」、『尊商』第四号。

詩「私の摇篮」、『尊商』第四号。

小品「晩春の新開地」、『尊商』第四号。

「霜夜の感想」、『尊商』第四号。

小説「祖母の遺言」、『小説倶楽部』八月号。

小説「ある嫉妬」、『小説倶楽部』十二月号。

一九二二年（大正十一年）十九歳

四月、小樽高商校友会誌の編集委員にえられる。

七月十七日、姉チマ、佐藤藤吉と結婚。

『小説倶楽部』、『新興文学』などへ短編小説の投稿をつづける。『小説倶楽部』三月号に「龍介と乞食」が選外佳作で当選、『新興文学』二三年一月号に「健」当選。

この年、小樽高商の教授大熊信行と知る。

（七月、日本共産党創立。八月、小樽は区制から市制になる）。

翻訳「ダニエルと夢」、『校友会々誌』一月第二十三号。

小説「悩み」、『校友会々誌』二月第二十四号。

小説「龍介と乞食」、『小説倶楽部』三月号。

小説「正当不相当」、『小説倶楽部』六月号。

翻訳「The Presence」（バルビュス）、『校友会々誌』六月第二十五号。

翻訳「運命?」（バルビュス）、『校友会々誌』十一月第二十七号。

小説「龍介とS子」、『新興文学』十一月創刊号。

小説「春ちゃんの場合」、『新興文学』十二月号。

小説「兄」、『文章倶楽部』十二月号。

一九二三年（大正十二年）二十歳

十一月十七、十八日、小樽高商の関東震災義捐外国語劇大会のフランス語メーテルリンクの「青い鳥」に出演。

小説「健」、『新興文学』一月号。

小説「継祖母のこと」、『校友会々誌』三月第二十八号

詩「ある時のわれ」、『校友会々誌』第二十八号。

小説「藪入」、『新興文学』七月号。

小説「ロクの恋物語」、『校友会々誌』十月第三十号。

評論「歴史的革命と芸術」、『新樹』十一月第三集。

「編纂余録」、『校友会々誌』第二十八～第三十二号。

一九二四年（大正十三年）二十一歳

三月九日、小樽高等商業学校卒業。

三月十日、北海道拓殖銀行に就職、札幌本店に勤務。

四月、島田正策、蒔田栄一、片岡亮一、斎藤次郎、新宮正辰、戸塚新太郎、宇野長作らと同人雑誌『クラリテ』を創刊。

四月十八日、拓殖銀行小樽支店計算係勤務、二ヶ月後、為替係にかわる。

八月二日、父末松死去。

十月、このころ不幸な境遇にある田口タキと知る。

（六月、『文藝戦線』創刊）。

評論「リズムの問題」、『新樹』一月第四集。

小説「ある役割」、『校友会々誌』三月第三十二号。

戯曲翻訳「見捨てられた人」（アルフレッド・ストロ）、高商卒業論文。

翻訳「パンの征服」（クロポトキン）、高商卒業論文。

小説「暴風雨もよい」、『クラリテ』四月第一輯。

「赤い部屋」「同人雑記」、『クラリテ』四月第一輯。

感想文「修身とサウシアリズム」、『クラリテ』七月第二輯。

小説「駄菓子屋」、『クラリテ』第二輯。

「赤い部屋」「編集雑記」、『クラリテ』第二輯。

「赤い部屋」「仲間雑記」、『クラリテ』九月第三輯。

小説「ある改札係」、不詳。

一九二五年（大正十四年）二十二歳

三月、上京して東京商科大の入学試験をうけ不合格になる。

四月、銀行員の安易になりがちな生活態度を反省し、ノートの原稿帳をつくって刻苦の努力を

はじめる。

十二月、田口タキを救い出す。

(八月、小樽総労働組合創立。十月、小樽高商軍教反対闘争。十二月末、日本プロレタリア文芸連盟創設)。

小説「彼の経験」、『クラリテ』二月第四輯。

「赤い部屋」「仲間雑記」、『クラリテ』第四輯。

一九二六年(大正十五年)二十三歳

四月末、田口タキを若竹町に住ませる。

五月二十六日、「折々帳」(日記)を書き始める。

九月十四日、葉山嘉樹の小説集『淫売婦』に感銘をうける。

十一月五日、高島素之『マルクス十二講』を読む。

十一月十一日、田口タキ自活の道を求めて家出する。

小説「師走」、『クラリテ』三月第五輯。

「赤い部屋」「仲間雑記」、『クラリテ』第五輯。

感想文「『下女』と『循環小数』」、『新樹』五月号。

小説「龍介の経験」、『極光』七月号。

小説「父の危篤」、『原始林』九月第十六輯。

感想文「シェイクスピアよりも先ずマルクスを」、『小樽新聞』十一月十七日号。

感想文「朝野十二氏へ」、『小樽新聞』十一月二十七日号。

感想文「頭脳の相違」、『小樽新聞』十二月二十七日号。

一九二七年(昭和二年)二十四歳

科学的社会主義の学習をはじめる。

三月六日、余市実科高等女学校で「ノラとモダン・ガールに就いて」講演。

三月三日～四月九日、磯野小作争議が労働者との共闘で小樽でたたかわれ、争議の指導者武内清の依頼で磯野側の情報を提供する。

五月は二十日、文芸講演会で北海道にきた芥川龍之介、里見弴を小樽にまねき座談会を開く。

五月二十八日、田口タキ行方を知らさず小樽を去る。

六月十九日～七月四日、小樽港湾争議を応援し、ピラの製作などに参加。

八月、労農芸術家連盟に加盟、九月ころ小樽支部幹事になる。

九月、古川友一の主宰する社会科学研究会に参加し、毎週定期の研究会に出席しはじめる。労働農民党小樽支部、小樽合同労働組合の人たちと関連をしだいにふかめる。

十一月、労農芸術家連盟分裂、前衛芸術家同盟組織さる。前芸に参加。

十二月、中編小説「防雪林」起稿。

小説「雪の夜」原稿帳。→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/4156_17546.html

小説「人を殺す犬」、『校友会々誌』三月第三十八号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/4155_17547.html

小説「万歳々々」、『原始林』四月第二十一輯。

小説「田口の『姉の記憶』」、『北方文芸』六月第四号。

感想文「大熊信行先生の『社会思想家としてのラスキンとモリス』」、『小樽新聞』二月二十七日号。

戯曲「女囚徒」、『文芸戦線』十月号。

評論「詩の公式」、『山脈』五月創刊号。

評論「マルクスの芸術観」、不詳。

評論「十三の南京玉」、『小樽新聞』五月二十三、三十日号。

小説「残されるもの」、『北方文芸』十月第五号。

評論「チャップリンのこと其他」、『シネマ』十二月創刊号。

一九二八年（昭和三年）二十五歳

二月、第一回普選実施。労働農民党から立候補した日本共産党員の山本懸蔵を応援し、東倶知安方面の演説隊に加わる。

三月十五日、三・一五事件。小樽では二ヶ月にわたって約五百人の人々が逮捕、検束、召喚され、身辺からも数人の同志たちが検挙された。

三月二十五日、前衛芸術家同盟と日本プロレタリア芸術連盟合同、全日本無産者芸術連盟（ナップ）結成。

四月十日、小樽合同労働組合、労働農民党、無産青年同盟小樽支部解放さる。

四月二十六日、「防雪林」完成。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/18368_23834.html

五月、ナップ機関誌『戦旗』創刊。伊藤信二、風間六三らとナップ小樽支部を組織し、『戦旗』の配布を受けもつ。

五月中旬、十日間の予定で上京、蔵原惟人を訪れる。以後その理論的影響をうけ、ふかい友情を結ぶ。

五月二十六日、「防雪林」を未定稿のままにし、中編小説「一九二八年三月十五日」起稿。

七月、為替係から調査係へかわる。

七月三日、小樽運輸労働組合創立。

八月十七日、「一九二八年三月十五日」完成。

九月五日、「東倶知安行」完成。

九月、三・一五事件により中断した社会科学研究会を再開。

十月十四日、「防雪林」の改稿に着手したが、まもなく中止する。

十月二十八日、中編小説「蟹工船」起稿。

十一月末、小樽海員組合関係の北方海上属員倶楽部発行『海上生活者新聞』の文芸欄を担当。

十二月二十五日、ナップ再組織され、全日本無産者芸術団体協議会（ナップ）成立。

評論「『海戦』を中心の雑談」、『シネマ』一月号。

小説「最後のもの」、『創作月刊』二月創刊号。

小説「誰かに宛てた記録」、『北方文芸』六月第六号。

評論「吹雪いた夜の感想」、『小樽新聞』一月九、三十日号。

評論「とても重大な事」、『シネマ』二月号。

評論「さて、諸君!」、『シネマ』三月号。

小説「瀧子其他」、『創作月刊』四月号。

評論「『ヴォルガの船唄』其他」、『シネマ』五月号。

評論「『第七天国』」、『シネマ』、六月号。

小説「一九二八年三月十五日」、『戦旗』十一、十二月号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/49394_33663.html

評論「口語歌人よ、マルクス主義を!!」、『新短歌時代』十二月号。

一九二九年（昭和四年）二十六歳

二月十日、日本プロレタリア作家同盟創立、中央委員会に選ばれる。この月、伊藤信二らと小樽支部準備会を組織。

三月十六日、「蟹工船」完成。

四月十六日、四・一六事件、小樽で約四十人検挙さる。

四月二十日、小樽警察署に拘引、家宅捜査をうける。

五月十四日、田口タキと再会。

七月六日、中編小説「不在地主」起稿。

八月二十三日、全小樽労働組合創立さる。準備活動に参加し、綱領を起草、内部の協調的見解とたたかう。

九月二十九日、「不在地主」完成。

十月、幾春別炭鉱を見学。

十一月十六日、依頼退職のかたちで拓殖銀行を解雇さる。

十二月十八日、中編小説「工場細胞」起稿。

評論「映画には顕微鏡を?」、『シネマ』一月号。

アンケート「推奨する新人」、『創作月刊』一月号。

「自分の中の会話」、『文章倶楽部』新年号。

感想文「海員は何を読まなければならないか」、『海上生活者新聞』一月五日第一号。

「略歴と作品その他」、『読売新聞』一月五日号。

感想文「『殺され』たくない船員へ」、『海上生活者新聞』二月十四日第二号。

感想文「『寄らば切るぞ!』」、『海上生活者新聞』三月二十二日第三号。

小説「蟹工船」、『戦旗』五、六月号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/1465_16805.html

アンケート「形式主義文学理論を如何に観るか」、『文芸レビュー』五月号。

評論「プロレタリア文学の『大衆性』と『大衆化』について」、『中央公論』七月号。

「『カムサツカ』から帰った漁夫の手紙」、『改造』七月号。
評論「こう変っているのだ。」、『北方文芸』六月第七号。
感想文「原作者の寸言」、『帝劇』七月号。
感想文「断片を云う」、『文学時代』十月号。
評論「プロレタリア文学の大衆化とプロレタリア・レアリズムに就いて」、『プロレタリア芸術教程』第二輯、九月。

小説「不在地主」、『中央公論』十一月号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/49181_34750.html

評論「頭の蠅を払う」、『読売新聞』十月二十日号。

アンケート「来年は何をするか」、『文学時代』十二月号。

感想文「不在作家」、『文芸春秋』十二月号。

アンケート「『蟹工船』と『不在地主』」、『新潮』十二月号。

評論「無鉄砲過ぎる期待だろうか?」、『松竹座パンフレット』十二月二十日第一集。

（七月二十六日～三十一日、高田保、北村小松増補脚色、「蟹工船」改題「北緯五十度以北」(五幕十二場)、土方与志出演、帝国劇場で築地劇団公演)。

単行本『蟹工船』（「一九二八年三月十五日」収）、戦旗社、九月。

単行本『蟹工船』（改訂版）、戦旗社、十一月。

一九三〇年（昭和五年）二十七歳

二月二十四日、「工場細胞」完成。

三月末、上京、市外中野町上町に下宿。

四月六日、作家同盟第二回大会に出席。

五月中旬、『戦旗』防衛巡回講演で、江口渙、中野重治、貴司山治、片岡鉄兵、大宅壮一らと京都（十七日）、大阪（十八日）、山田（二十日）、松坂（二十一日）へおもむく。

五月二十三日、日本共産党へ資金援助の事件で大阪島之内警察に検挙さる。

六月七日、いったん釈放さる。

六月二十四日、帰京後、同事件で杉並区成宗五十四番地立野信之方で検挙され、杉並、巢鴨、坂本署に留置さる。

七月十九日、「蟹工船」の問題で『戦旗』の発行名義人山田清三郎と不敬罪の追起訴をうける。

八月二十一日、治安維持法で起訴、豊多摩刑務所に収容される。

（九月、全日本無産者芸術団体協議会機関誌『ナップ』創刊。十一月、ハリコフで国際革命作家第二回総会開催、日本問題の決議が行なわれる）。

感想文「葉山嘉樹」、『新潮』一月号

感想文「岩藤雪夫」、『新潮』一月号。

評論「北海道の『俊寛』」、『大阪朝日新聞』一月九日号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/51178_41141.html

「私の顔」、『新文芸日記』三〇年版。

アンケート「宗教について」、『中外日報』一月九日号。

小説「救援ニュース№18. 附録」、『戦旗』二月号

評論「プロレタリア文学の新しい文章に就いて」、『改造』二月号。

「総選挙と『我等の山懸』」、『戦旗』二月号。

評論「プロレタリア文学の方向に就いて」、『読売新聞』一月十四、十五、十七日号。

評論「『暴風警戒報』と『救援ニュース№18. 附録』に就いて」、『読売新聞』二月一、四日号。

評論「宗教の『急所』は何処にあるか?」、『中外日報』二月二、四、五、六日号。

評論「『機械の階級性』について」、『新機械派』三月第一号。

小説「暴風警戒報」、『新潮』二月号。

序文「同志林房雄」、『鉄窓の花』、四月。

感想文「プロレタリア短歌について」、『新短歌時代』四月号。

「銀行の話」、『戦旗』四月号。

小説「同志田口の感傷」、『週刊朝日』四月春季特別号。

小説「工場細胞」、『改造』四、五、六月号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/1466_25186.html

アンケート「原稿映画検閲制度に就いて」、『新興新聞』五月号。

童話「健坊の作文」、『少年戦旗』五月号。

評論「プロレタリア・レアリズムと形式」、『プロレタリア文学』、六月創刊号。

アンケート「感心した作品・その理由」、『プロレタリア文学』六月号。

アンケート「プロレタリア大衆文学について」、『世界の動き』六月号。

評論「プロレタリア文学の『新しい課題』」、『読売新聞』四月十九、二十二号。

評論「『報告文学』其他」、『東京朝日新聞』五月十四～十六日号。

感想文「傲慢な爪立ち」、『時事新報』五月十九日号。

小説「『市民のために!』」、『文芸春秋』七月増刊号。

小説「東俱知安行」、『改造』十二月号。

（十月四～十三日、小野宮吉、島公靖脚色、「不在地主」（四幕十一場）、佐々木孝丸演出、市村座で東京左翼劇場公演）。

単行本『不在地主』、日本評論社、一月。

単行本『蟹工船』（改訂版）戦旗社、三月。

単行本『蟹工船』（中国語訳）、上海大江書舗、四月。

単行本『一九二八年三月十五日』、戦旗社、五月。

単行本『工場細胞』、戦旗社、七月号。

一九三一年（昭和六年）二十八歳

一月二十二日、保釈出獄、市外杉並町成宗八十八番地田口守治方に下宿。

二月上旬、中編小説「オルグ」起稿。

三月、田口タキとの結婚を断念する。

四月六日、「オルグ」完成。

五月二十四日、作家同盟第三回大会に出席。

六月、蔵原惟人の提唱により工場、農村の文化サークルを基礎にする文化団体の再組織が準備さる。

七月八日、作家同盟第四回臨時大会、中央委員に選ばれる。

七月十一日、作家同盟第一回執行委員会で常任中央委員、書記長に選ばれる。

七月末、市外杉並町馬橋三丁目三百七十五番地に一戸を借り、母セキ、第三吾と住む。

八月、中編小説「安子」起稿。

九月、長編小説「転形期の人々」起稿。

九月十五日、東京地方裁判所で三・一五、四・一六事件第一回公判を傍聴。

九月二十日、上野自治会館の第二回「戦旗の夕」で講演、検束される。

十月、日本共産党に入党、作家同盟の党グループ員になる。

十月二十四日、日本プロレタリア文化連盟（コップ）結成。同月末、「安子」完成。

十一月上旬、奈良に志賀直哉を訪れる。

十一月十五日、作家同盟の拡大中央委員会で芸術協議員に選ばれる。

（九月、「満州事変」勃発）。

評論「わが方針書」、『読売新聞』三月二十四、二十五、二十七、二十八日号。

小説「オルグ」、『改造』五月号。

「文芸時評」、『中央公論』五月号。

小説「壁にはられた写真」、『ナッパ』五月号。

評論「壁小説と『短い』短編小説」、『新興芸術研究(2)』四月。

「小説作法」、『総合プロレタリア芸術講座』第二巻、四月。

推薦文「『良き教師』」、『ナッパ』六月号。

評論「階級としての農民とプロレタリアート」、『帝国大学新聞』、六月八日第三八八号。

小説「独房」、『中央公論』七月号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/43684_25187.html

評論「四つの関心」、『読売新聞』六月十一、十二、十三、十五号。

評論「文戦の打倒について」、『前線』七・八月合併号。

壁小説「プロレタリアの修身」、『戦旗』六・七月合併号。

壁小説「テガミ」、『中央公論』八月号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/2699_20747.html

小説「飴玉闘争」、『三・一五、四・一六公判闘争のために』七月。

感想文「『一九二八年三月十五日』」、『若草』九月号。

感想文「読ませたい本と読みたい本」、『戦旗』八・九月合併号。

評論「『静かなるドン』の教訓」、『国民新聞』八月十七、十九日号。

壁小説「争われない事実」、『戦旗』九月号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/2701_20751.html

感想文「北海道の同志に送る手紙」、『ナッポ』九月号。

評論「当面の課題」、『都新聞』八月十六～二十日号。

壁小説「七月二十六日の経験」、『われら青年』八月。

「『新女性気質』」、『都新聞』八月二十一日号。

小説「父帰る」、『労働新聞』九月三日号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/2700_20753.html

「文芸時評」、『東京朝日新聞』、九月二十六、二十七、二十八、三十、十月一日号。

評論「良き協同者」、『時事新報』十月四日号。

「共産党公判傍聴記」、『文学新聞』十月十日第一号。

小説「母たち」、『改造』十一月号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/43685_16987.html

小説「安子」、『都新聞』八月二十三日～十月三十一日号。

壁小説「疵」、『帝国大学新聞』十一月二十三日第四〇八号。

壁小説「母妹の途」、『サロン』十二月号。

評論「プロ文学新段階への道」、『読売新聞』十一月二十六、二十七、十二月一、三日号。

評論「我等の『プロ展』を見る」、『美術新聞』十二月二十五日第二号。

（「一九二八年三月十五日」が国際革命作家同盟機関誌『世界革命文学』ロシア語版第十号に
訳載され、前後して、英、ドイツ、フランス語版に訳載）。

単行本『プロレタリア文学論』（立野信之共著）、天人社、三月。

単行本『オルグ』、戦旗社、七月。

一九三二（昭和七年）二十九歳

二月、作家同盟、国際革命作家同盟（モルプ）に加盟。

三月八日、中編小説「沼沢村」完成。

三月、「転形期の人々」を一時うちきる。

三月二十四日、文化団体への大弾圧始まる。

四月上旬、小石川区原町二十一番地木崎方にうつり、逮捕をまぬがれ地下活動にうつった宮本
顕治らと文化、文学運動の再建のために献身す。

四月十六日～八月一日第一期革命競争。

四月中旬、麻布区東町に住む、伊藤ふじ子と結婚。

五月十一日、作家同盟第五回大会（解散）。

六月、文化団体党グループの責任者になる。

七月、麻布新網町にうつる。日本反帝同盟の執行委員になる。

八月二十五日、中編小説「党生活者」完成。

九月四日～十一月七日、第二期革命競争。

九月下旬、麻布区桜田町に一戸を借りてうつる。この前後から作家同盟の敗北的見解にたいして論争をはじめる。

感想文「十二月の二十何日の話」、『婦人公論』、一月号。

感想文「故里の顔」、『女人芸術』一月号。

壁小説「級長の願い」、『東京パック』二月号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/2703_20749.html

アンケート「一九三二年に計画する」『若草』一月号。

アンケート「一九三二年への抱負」、『近代生活』一月号。

「監房随筆」、『アサヒグラフ』一月号。

「文芸時評」、『時事新報』一月十、十一、十二、十五日号。

感想文「『転形期の人々』の創作にあたって」、『短唱』二月第二号。

小説「失業貨車」、『若草』三月号。

評論「『組織活動』と『創作活動』の弁証法」、『読売新聞』一月二十七日号。

評論「我々の文章は簡単に適確に」、『帝国大学新聞』二月二九日第四二一号。

感想文「『一九二八年三月十五日』の経験」、『プロレタリア文学』三月号。

評論「戦争と文学」、『東京朝日新聞』三月八～十日号。

小説「転形期の人々」、『ナップ』三十一年十、十一月号、『プロレタリア文学』一～四月号

。

小説「沼沢村」、『改造』四、五月号。

評論「第五回大会を前にして」、『プロレタリア文学』四月号。

評論「『文学の党派性』確立のために」、『新潮』四月号。

「文芸時評」、『読売新聞』四月一～三日号。

評論「『国際プロレタリア文化聯盟』結成についての緊急提案」、『プロレタリア文学』五月号。

「文芸時評」、『中央公論』六月号。

評論「暴圧の意義及びそれに対する逆襲を我々は如何に組織するか」、『プロレタリア文学』六月号。

評論「『政治的明確性』の把握の問題に寄せて」、『プロレタリア文学』六月号。

評論「日和見主義の新しき危険性」、『プロレタリア文化』八月号。

評論「八月一日に準備せよ!」、『プロレタリア文化』八月号。

評論「闘争の『全面的』展開の問題に寄せて」、『プロレタリア文化』九月号。

評論「二つの問題について」、『プロレタリア文化』十月号。

評論「右翼的偏向の諸問題（三、四、五章）」、『プロレタリア文学』十二月号。

評論「闘争宣言」、『プロレタリア文化』十一・十二月合併号。

（「蟹工船」が『世界革命文学』ロシア語版第二号に訳載）。

単行本『沼沢村』、作家同盟出版部、八月。

一九三三年（昭和八年）

一月七日、「地区の人々」完成。

一月二十日、麻布区桜田町の隠れ家を捜査され、このころ渋谷区羽沢町四十四番地国井喜三郎方に下宿。

二月十三日、「右翼的偏向の諸問題」完結。

二月二十日、正午すぎ赤坂福吉町付近で連絡中、今村恒夫と築地署特高に逮捕さる。同署で警視庁特高中川、山口、須田の拷問により午後七時四十五分死去。

検察当局は死因を心臓麻痺として発表、死体の解剖を妨害し、二十二日の通夜、二十三日の告別式参会者を検束し、堀の内火葬場まで警戒をとかなかった。

三月十五日、追悼と抗議のなかで全国的な労農葬が築地小劇場で弾圧下に行なわれ、『赤旗』、『無産青年』、『大衆の友』、『大学新聞』、『プロレタリア文化』、『プロレタリア文学』の特集号が発行された。

（三月十八～三十一日、大沢幹夫脚色、「沼沢村」（四幕）、岡倉士朗演出、築地小劇場で新築地劇団追悼公演）。

評論「二つの戦線における闘争」（「右翼的偏向の諸問題」第一章）、『プロレタリア文化』一月号。

小説「地区の人々」、『改造』三月号。

評論「右翼的偏向の諸問題（六、七、八、結び）」、『プロレタリア文学』二月号。

評論「同志淡徳三郎の見解の批判」（「右翼的偏向の諸問題」二章）、『プロレタリア文化』四月号。

評論「討論終結のために」（「右翼的偏向の諸問題」、二・一三）、『プロレタリア文化』三月号。

小説「党生活者」、『中央公論』四、五月号。

→http://www.aozora.gr.jp/cards/000156/files/833_28260.html

単行本『不在地主、オルグ』、改造文庫、三月。

単行本『小林多喜二全集』(二)、作家同盟出版部、四月。

単行本『蟹工船、不在地主』、新潮文庫、四月。

単行本『日和見主義に対する闘争』（労農葬記念）、日本プロレタリア文化連盟出版部、四月

。単行本『地区の人々』（小説集）、改造社、五月。

単行本『転形期の人々』、国際書院、五月。

単行本『蟹工船、工場細胞』、改造文庫、五月。

単行本『転形期の人々』改造社、九月。

小林多喜二年表

<http://p.booklog.jp/book/39836>

著者：荒木優太

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/arishima-takeo/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/39836>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/39836>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.